

○議長（川崎和夫君） 3番 吉川孝弘君。

○3番（吉川孝弘君） 私のほうからは、地域人材の発掘・育成について質問したいと思います。

昨日もボランティアフェスティバルが舟橋会館で盛大に行われていました。舟橋村では、各種団体の皆さんがそれぞれの経験を生かしてボランティア活動に励んでおられます。たくさんのイベントができるのもボランティアさんのおかげと感謝するとともに、頭が下がる思いであります。

舟橋村には、ヘルスボランティアや食生活改善推進協議会等の多くのボランティア組織がありますが、多くの組織団体は会員の高齢化と担い手不足などの問題を抱え、組織力が低下しています。

地域のために行っているイベント等は、減らすことはなかなかできません。中には1人で幾つものボランティア活動をかけ持ちされていて、負担がかかっている方も少なくないことも現状であります。

このまま推移すれば、地域の活性化である地域の活動団体が消滅の危機にさらされるおそれがあります。

地域活動を担うボランティアは地域づくりの基盤となるものであり、活動を担う人材の発掘・育成は今後のまちづくりに必要不可欠であると考えております。

村として今後どのような対策を考えていらっしゃるのかお聞かせください。

よろしく申し上げます。

○議長（川崎和夫君） 生活環境課長 吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君） 3番吉川議員の、地域人材の発掘・育成についてのご質問にお答えいたします。

今、日本は少子高齢化時代に入っており、特に地方においては、高齢化に伴う医療等の負担増に加え、若者世代の流出などから、地域の活動、運営が困難になってきております。

一方、本村は村民の平均年齢が比較的若い自治体ですが、18歳から24歳までの人口の流出が多いことから、今後急激な高齢化が予測されております。

議員ご指摘のとおり、持続可能な地域づくりには、住民がお互いに助け合い、支え合い、さまざまな地域活動へ参加するという機運を高めていくことが大切であります。しかし、一方では、都市化が進展する中で、住民同士の連帯感や地域社会への関心が希薄

化する傾向が進んでいるのも事実であります。

現在、本村では、舟橋村健康構想の基本目標に「エイジレス世代の地域における居場所や役割づくり」を掲げており、その実現に向けた事業を展開しております。

先ほど杉田議員の一般質問でも答弁いたしましたでしたが、退職前後の男性を対象にしたケアウィル塾や子育てが一段落した女性を対象としたエイジレスカフェの開催をはじめ、民生委員協力員の皆様と、地域のつながりづくりをテーマとしたワークショップの開催であります。

これらの事業は、エイジレス世代が地域の中に居場所や役割を見つけることにより、地域づくりに参画する人材の発掘・育成にもつながるものであります。

また、本村の総合戦略プロジェクト事業におきましても、地域に参画する人材の発掘育成を民間主導スタイルで進めております。例えば造園業によるパークマネジメント事業では、公園の運営やイベント企画を業者と住民の方がタイアップして取り組んでおります。また、保育園を運営する事業者は、子育て経験のある方にその経験と知恵を提供いただくことで、地域に支えられる保育園運営を展開しているところであります。

これらの取り組みによりまして、過少なから地域づくりへ参画する方が増えてまいりました。

地域の人材発掘・育成に当たっては、即効性のある施策はありません。地道ではありますが、今後もこの取り組みを着実に進めることにより、住民主体のまちづくりの実現化を目指すことを申し上げまして、答弁いたします。

○議長（川崎和夫君） 吉川孝弘君。

○3番（吉川孝弘君） 今ほど、地道にボランティア活動のほうを発掘・育成やっておられることをありがたく思っております。

ボランティアといってもなかなか大変なことでありますので、例えば、ものづくりしていた人が子どもたちを教えたり、料理できる人は料理したり、何かこんな自分たちの趣味とか技術を持ってもらって、楽しみながら皆さんとボランティア活動をしていてもらいたいと思います。

先ほど竹島議員さんの問いに村長さんも答えられたように、ボランティアの力は大切な村の力になっております。もし何かあった場合でも、一番に活躍できる場だと思っております。

また今後もボランティア活動の育成・発掘のほうをよろしく願いして、私の質問と

いたしました。

ありがとうございます。

○議長（川崎和夫君） 吉川議員、これ、答弁必要ですか。

○3番（吉川孝弘君） いいです。